



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、このレターを読んでもくださる皆さんへ 2024年7月1日

また、夏が来ます！皆さん元気でしょうか？
皆さんが元気にしておられることを心から願っています。

ゴスペル = 福音 = 神の良い知らせ

ゴスペル・福音・神の良い知らせは、現実です！
現実です！ゴスペルは、人類のたった一つの望みです。

神の良い知らせを、人は話すことはできても、人に教えたり、納得させたりすることはできないのです。それを人の心に教えるのは、神にしかできないのです。神の良い知らせは、それを知りたいと願う人の心に、神自身が教えてくださるのです。良い知らせとは、「神は、人となって、私たちのために命を捨ててくださったほどに、私たちが愛しておられる。そして、死人の中からよみがえられた。」ということです。

神の恵みは、

天と地の全てのものの造り主なる神は、あわれみ深く、情け深い。怒るのにおそく、恵み豊かである。天と地の全てのものの造り主なる神は、絶えず争ってはおられない。いつまでも、怒ってはおられない。私たちの罪にしたがって私たちを扱うこともせず、私たちの咎にしたがって私たちに報いることもない。天が地上はるかに高いように、御恵みは、天と地の全てのものの造り主なる神を恐れる者の上に大きい。東

が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。父がその子をあわれむように、天と地のすべてのものの造り主なる神は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。天と地の全てのものの造り主なる神は、私たちの成り立ちを知り、私たちがちに過ぎないことを心に留めておられる。

人の日は、草のよう。野の花のように咲く。風がそこを通り過ぎると、それは、もはやない。その場所すら、それを、知らない。しかし、天と地のすべてのものの造り主なる神の恵みは、とこしえから、とこしえまで、天と地の全てのものの造り主なる神を恐れる者の上にある。

(詩篇 103 : 8 ~ 17*)

永遠の命の望み

私たちのこの体は古びてなくなる体ですが、神の愛のゴスペルを心にいただくなら、古びてなくなることでは、命は終わらないのです！むしろ、体が古びることで、「どこかに、なくなる希望はないのか——!!?!?!」と、心が叫ぶのです。もし、体が古びて、それで命が終わりになるのであれば、人は、悲しい、寂しい、情けない、悔しい、わびしい、恐ろしい、などなど、心は落ち込み、気はふさぎ、生きていることの空しさに襲われるのです。しかし、人が、天と地の全てのものの造り主なる神を真剣に考え、真剣に求める時、神の愛のゴスペル（良い知らせ）の中に、永遠になく

ならない望みがあることを、人は知るようになります。それは、真の神を真剣に知りたいその人の心を、神が知っておられ、神はその人に神の真理を示してくださるようになるからです。

そのことが皆さんの心に起こるのを、私は心から願う者です。私は、真の神であるイエス・キリストとその愛にある永遠の命の望みを伝えるよう、神から、その役割を与えられているのに過ぎません。(全てのクリスチャンがそうです。)

天と地の全てのものの造り主なる神だけが、永遠の命を、人に与えることができます。昔、神が、この永遠の命の望みを伝える役割を与えた人の中に、伝道者であるソロモンがいます。彼は天と地の全てのものの造り主なる神からもらった知恵を人々に語り、当時の人々の心を、天と地の全てのものの造り主なる神に向けるよう、宣べ伝える役割を与えられました。そして、今も、彼は語っています。彼の語った言葉を引用して、私も、今風に語らせていただきたいです。

以前にも書きました歌「生きている者」です。

生きている者は、まだ、永遠の命の望みを知ることができます。そして、何と、他の人が死ぬことを通して、神は、まだ生きている人に、神が下さる永遠の命を考える時を下さるのです。そして、誰でも、イエス様の愛のゴスペルを心に受け取る時、その人は、神から永遠の命を与えられるのです。

生きている者

死の日は生まれる日に勝り 悲しみは笑いに勝る
死の日は生まれる日に勝り 悲しみは笑いに勝る
祝宴の家に行くよりは 喪中の家に行く方がよい
そこにはすべての人の終わりがあり
生きている者が それを心に留めるようになるからだ

一言も聞こえない 朝の満員電車でゆられて

また今日が始まる

人は何のために生きているのかと

誰も問いかげはしない

希望の歌を歌いたいのに 絶望の歌が生まれる

塩気をなくしたら塩が 何の役にもたはず
外に捨てられて踏みつけられているようだ

入学したら 卒業したら 就職したら

結婚したら 子どもが出来たら 家を買ったら

映画を見たら ゴルフをやったら 旅行に出たら

浮気をしたら 離婚をしたら 自殺をしたら

満たされない心に掻き立てられて

忘れた頃に出る虹を追いかける

捜していたものは なかったそこには

何を捜していたのかも わからない わからない

神が人に与える人生

喜びと楽しみ、平安と自由、そして、その他、全ての良いものは、天と地の全てのものの造り主なる神から与えられるものです(ヤコブ1:17)。

つまらない、面白くない人生ではありません。イエス様と歩む人生は、イエス様が下さる良いもので満たされた人生です(ヨハネ10:10)。

下村栄先生

最近、また下村先生のことを思い出して考えていた。私のバイオリンの先生だった人です。私が小学生だった頃の先生のあだ名はゴジラ。イタシイ(厳しい)先生でしたが、キャッチボールを時々してくれるやさしい先生でもあった。私はこの歳になって先生のことを思い出すのです。先生には子供さんがおられなく、先生の毎日は、だいたい仕事とゴルフで詰まっていたようです。学校の先生だった奥さんが早く亡くなられ、その後は、お母さんと二人の生活だったと聞いていました。先生に会ったのは、私が7歳の時。

その時から高校を卒業して山口を出るまでの

間、一度だけ、私たち、先生の生徒の何人かが、先生の自宅によんでもらって、わいわい楽しんだことがありました。裏庭にゴルフのボールを打つネットがあって、私たち皆が、かわるがわる、そのネットに向けてボールを打たせてもらったのを覚えています。先生のお母さんが作ってくださった料理の一つを、今でも覚えています。甘がらく味付けした、うすぎりの牛肉。多分、先生が、ビールのつまみに好きだったのかなと今思う。

私たちがアメリカから帰って来たのは1978年。その6年後の1984年に、再びアメリカに引っ越して以来、私は自分と家族のことだけで精一杯！先生のことは、ほとんど忘れていました。それから40年が過ぎた。

前後しますが……

もう少し前の昔のこと・1960年代

下松駅の山側にあったビルの中に、「すずや楽器店」があった。そこに移転する前は、駅の海側の通りであって、普通の民家の楽器屋だった。その古い「すずや」の入り口に入って、そのまま進み、裏口から出た薄暗いところに、プレハブでできた一部屋の建物があった。下村先生はそこで音楽を教えていた。そこにはピアノも置いてあって、先生はバイオリン以外に、ピアノとクラシックギターも教えていた。私たちが高水の田舎から下松に引っ越して来て、まだあまりたってなかった。その薄暗いところに置いてある椅子に座って自分のレッスンの番を待つ私の心は、それまでとは違っていた。ガキ大将気分ではなく、不安が混じった競争心でいっぱいの子。負けず嫌いは充分残っていた。その頃から、下松は音楽が盛んになったと思う。私が高校生の時は、アメリカから来た音楽のコピーをするバンドが、この田舎町にもいくつもあった。きらきらライトが輝く商店街のビルに進出したすずや楽器店の陳列棚には、いろいろな楽器が並んでいた。50年以上前の事だ。あー、懐かしい。

時がたった。「すずや」が閉店した。いつかわからない。

そこに勤めていた古谷さんが、町の中心から少し離れたところで、小さな楽器屋さんを開いた。私は、約10何年前に兄の不動産屋を通して、下松に荒屋を購入。以来、そこを拠点として旅をしている。何年前だったか、下松の家に行った時、ギターの弦がなくなって、古谷楽器に行った。「いやーあ、なつかしいですね。お元気ですか？」そう挨拶したあと、私が下村先生のことを尋ねたら、「レッスンを辞められてからは、先生は一人暮らしで、寂しかったんでしょうね。お酒を以前より多く飲むようになられて、アル中だったようです。その後、お会いすることもなくなり、数年前、亡くなられたそうです」と古谷さんが言った。下村先生に、何度かイエス様を話す時がありましたが、あーあ、あーあ、悲しい。

「イエス様、どうか、私を、あわれんでください。あなたが私に会わせてくださる方々に、あなたと、あなたにある永遠の命の望みを、どうか、一生懸命、話させてください。よろしく願います。」涙

昔聖書に書かれたことは、私たちの霊的益のため

「昔（聖書に）書かれたものは、全て私たちが教えるために書かれたのです。それは聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。」（ローマ15：4）

旧約聖書に記されている人々で、神を愛し、神のみ旨を求めて生きた人々は、彼らの人生の一本立て映画の主人公です。神を愛し、神のみ旨を求めて生きる私たちと同じでしょう。ですから、彼らの置かれた状況に私たちが、自分を置く時、彼らの信仰による人生を通して、私たちは、神から習うことが充分あるのです。私たちが信じている造り主の神がどのような方であるかを知り、また私たちに対する愛と恵み、哀れみと忍耐、私たち

に与えてくださった約束に対する神の忠実などです。神を愛し、神を恐れて生きた人への神の忠実と恵みを、私たちは、彼らの中に見る時、私たちは励まされ嬉しくなるのです。そして、神は、その人に起こるすべてのことを、その人の益、また家族の益、国の益、人類の益にされたのです。今も同じです。

もし、私が、ノアだったら、アブラハムだったら、イサクだったら、ヤコブだったら、私がヨセフだったら、ダニエルだったら、ダビデだったら、と、それぞれ特別な状況の中に置かれた彼らと、天と地の全てのものの造り主なる神との関わりを私は考えるのです。そして、自分を、当時の、それらの人に当てはめて考える時、私たちが与えられている聖霊によって、私たちは、神から習い、諭され、心を新たにされ、力づけられ、天と地の全てのものの造り主なる神について行かせてもらう感激で、心が奮い立たされるのです!!!

WWJD

「もし、私がイエス様（天と地の全てのものの造り主なる神）だったら？」と考えたら？ ううう、それは、無理ですね。笑。確かに、天と地のすべ

てのものの造り主なる神の愛をいただいて、神の子どもとされた者には（ヨハネ 1：12）、キリストの心があるので（1コリント 2：16）、キリストに似たものとして、この世にイエス様を表す者です。それで、私たちはクリスチャンと呼ばれるようになったんでしょうね。

25年くらい前でしょうか、「WWJD」という言葉がアメリカの（日本でも？）教会の中高生グループの間で流行りました。中高生グループのほとんどの若者が、「WWJD」と書いてあるブレスレットをしているのです。What would Jesus do? の頭文字をとって作られた励まし合いの、合言葉みたいだったのです。もし、今、イエス様が、私の置かれている状況だったら、「イエス様は、どうされるだろう？」という意味です。イヤーイヤ、素晴らしい流行りだったと思います。残念ながら、その流行は去って行ってしまいましたが、私たちのイエス様に対する心は、今も同じように、燃やされているのです。今日からまた、WWJDでガーーーーっと行かせてもらいましょうね！ イエス様、よろしくお願いします。



8月9日のLIVE Information

この夏もいくつかライブがあります。もし、皆さんの近くであるようでしたら、お友達を誘って聞きに来てください。もちろん、お一人でも大歓迎ですよ。

開場、開演の時間がまだわかりませんので、どうかそれぞれのところに連絡してください。よろしくお願いします。

- | | | | | |
|---------|------------------------------|------------------------|------------|------------------|
| 8月2日～4日 | 宝塚ブルーグラス・フェスティバル | 三田アスレチック | 三田市波豆川 288 | 079-569-0024 |
| | 4日の日曜日は 8:00 から 30 分のゴスペルタイム | それ以外それぞれのバンドの持ち時間は 9 分 | 入場料 4500 円 | |
| 8月14日 | 大阪西成あいりん地区 | | | 08088526247 (藤重) |
| 8月16日 | 憩いの広場アイボリー | 京都市東山区毘沙門町 37 | | 075-561-4235 |
| 8月25日 | 宝塚栄光教会 | 宝塚市中州 1-15-19 | | 0797-73-6076 |
| 9月8日 | 主イエス恵愛教会 | 春日井市南下原町 3-5-8 | | 0568-85-9632 |

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町 2 丁目17-24

FAX▶ 0833-91-6492

E-mail▶ thewindisblowing@hotmail.com

振替口座▶ 01330-4-93687 #ザ・デイ

Noboru Morishige

P.O.BOX 1666

KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A

TEL ▶ 808-966-9252